

印刷けんぽ

新年特別号

ニュース No.205

全国印刷工業健康保険組合
東京都中央区新川1-5-13
☎03-3551-9301
令和5年1月1日発行

<http://www.insatukenpo.or.jp>

年頭のご挨拶(年頭所感)

理事長 佐野 栄二



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、謹んでお慶び申し上げます。また、平素より当組合の事業運営に格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2020年1月にはじめての感染者が確認された新型コロナウイルスですが、すでに発生から3年経過しようとしております。昨年は、年明け早々に第6波、夏には第7波が襲来し、また、冬に入ってから再び感染が拡大しており、コロナの収束時期が見通せない状況が続いています。これに加えて、今年はこちら数年流行していなかった季節性インフルエンザについても同時流行が懸念されているところでございます。

現在、政府は新たな行動制限などは行わず、社会経済活動の維持と医療逼迫の回避の両立に向けて取り組むとして、「ウイズコロナ」の政策を進めております。こうした中では、従来株とオミクロン株に対応したワクチンの接種も有効な方法とはなりますが、やはり、マスクの着用、手洗い、換気等、感染予防対策の徹底がなによりも重要となりますので、引き続きのご対応をお願いいたします。

一方、印刷健保の財政状況でございますが、令和4年度の予算につきましては、保険料収入の減収と保険給付費の増加により、約2億円の赤字予算を策定しておりましたが、保険料収入の改善等が見られることもあり、今後の保険給付費の動向によっては、昨年度同様に、黒字を確保することも考えられるところとなっております。

このような状況ではございますが、我々健保組合の財政を苦しめている高齢者医療制度への納付金等につきましては、いわゆる団塊の世代が後期高齢者に移行する2025年にかけて、急激な負担増加が見込まれております。

この難題を解決するために、政府は、全世代型社会保障構築会議などの場において、高所得者を中心とした高齢者の保険料の年間上限額の引き上げや、子育て世代の支援としての出産育児一時金の増額など、高齢者と現役世代の給付と負担の在り方について検討を行っております。

こうした中で、当組合といたしましても、組合財政の早期健全化を果たすべく、公費負担の拡充をはじめとする医療保険制度の抜本的改革を健保連等の関連団体とともに、国に対して働きかけていく所存でございます。

皆様方におかれましては、引き続き、当組合の事業運営に絶大なるご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、今年が皆様にとってよき年となりますことをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



